

【一葉の魅力⑬西日本唯一の漢方薬学科〈4〉福岡県初の取り組み 福岡県から委託を受け、県内で薬用植物を調査しています】

2025/4/10 公開



第一薬科大学は福岡県からの依頼を受け、県内で自生している薬用植物の調査にあたっております。漢方薬に使われる生薬の原料として需要が見込まれる薬用植物を栽培することによって、中山間地域の活性化を目指した農業振興の一環。すでに他県では同様の取り組みが行われているケースがありますが、福岡県では初の取り組みです。西日本で唯一、

漢方薬学科があり、漢方に詳しい教員らがいるということで本学が委託を受けました。令和6（2024）年度に開始し、7年度も引き続き調査を実施します。

生薬の多くが中国産だそうで、日本国内では北海道などで生薬の原料となる薬用植物を栽培する動きがみられます。ところが福岡県ではほとんど栽培されていない状態だそうです。

県によると、県内の中山間地域での生産に適した需要のある薬用植物の品目選定に向けた自生地調査などを行うことによって、やがては薬用植物の産地化を推進し、その地域の活力向上につなげたいねらいがあるそうです。

3月下旬に県庁で行われた会議では本学教員が県職員らに対してスライドで6年度の調査結果を報告。

対象地域は県内38市町村で、そのうち6年度は福岡市や北九州市、添田町など10市町で実施し、リンドウやカノコソウ、シャクヤクなどの自生を確認し、栽培の可能性についても説明しました。

